

価格安定課 NEWS

～「にいがた和牛」優良子牛の 生産拡大を目指して～

(和牛子牛生産技術マニュアルの紹介)

県産和牛の統一ブランド「にいがた和牛」の評価は年々高まってきましたが、和牛子牛の生産出荷頭数は飼養農家の高齢化が進む中で減少傾向が続いています。しかし、一方では佐渡や、阿賀北地域などで、繁殖牛の導入や拡大、そして酪農家が和牛繁殖経営に参入するなどの新しい動きも見られます。当協会では平成16年度から「地域肉用牛振興特別対策事業」を実施してきたところですが、平成18年度事業の一環として和牛繁殖牛の1年1産を実現するための基本技術及び高値で販売できる子牛の生産技術について、技術マニュアルを作成しましたので紹介します。

はじめに「基本技術の要点整理」として行動指標と達成目標、そして具体的な対応策を表にまとめました。

基本技術の要点整理

- I 1年1産を実現しよう
 - 1 毎日の発情観察
 - 2 母牛の体調管理
 - 3 一貫経営における繁殖牛の管理
 - 4 繁殖用雌牛の育成

- II 高値で売れる子牛を作ろう
 - 1 優良子牛の生産
 - 2 分娩前後の適正管理
 - 3 衛生管理の徹底
 - 4 子牛の飼料給与
 - 5 ET子牛の育成

- III 生産性向上に取り組もう
 - 1 粗飼料の確保
 - 2 牛舎施設の改善
 - 3 子牛の発育向上

次に「資料編」として要点整理に対応した形で図表を入れて説明しています。

分娩後30～40日までの発情の早期発見と繁殖管理表の記入は分娩後80日までに受胎させるための大事な仕事です。

わかりやすい図と写真で繁殖牛の栄養状態を把握できるようにしました。やせすぎや太りすぎは発情再起や受胎の遅れにつながりますから栄養度をチェックして飼料の給与を改善します。繁殖牛の分娩前後の増し飼いや粗飼料の給与目安量を数字で示しました。

子牛を別飼いして制限哺乳を行い、母牛をパドックなどで運動させると初回発情や受胎が早まります。



高値で売れる子牛を作るためには牛群の改良を進め、種雄牛を選定して交配します。

子牛が生まれるときの分娩管理と初乳の早期給与、そして下痢や肺炎の防止対策を詳しく説明しています。子牛にとっては乾いた寝床と保温が特に重要です。

子牛を別飼いして人工乳（スターター）を早期に摂取させること、食い込みがよく栄養価の高い良質な乾草をたくさん食べさせることで、骨格のしっかりした肋張りの良い牛を作ることができます。

また受精卵移植技術で生まれた子牛の代用乳による哺育育成体系も示しました。



(市場で高値を付けた子牛)

これから地域ごとの研修会などで生産者と関係機関に説明をする予定です。

「繁殖牛管理暦」と「子牛の育成管理暦」はポスターにして、マニュアル冊子とともに生産者に配布し、日常の飼養管理に役立ててもらうとともに、優良子牛の生産拡大に活用していただきます。